

問題〇12 摂関政治と国風文化③ 荘園と武士①

01 〔 〕（恵心僧都）は、
『 』で極楽往生の方法を確立
した。また、極楽往生と遂げたと信じられ
た人々の伝記集である〔 〕がさ
かんに編集された。

02 平安時代に発達した貴族の邸宅様式を
〔 〕とよぶ。

03 藤原頼通が 1052 年に宇治に建立した
〔 〕は代表的な阿弥陀
堂建築である。

04 その阿弥陀如来像は、仏師〔 〕
が〔 造〕の手法で制作した。

05 臨終の際に阿弥陀仏が救済のために迎
えに来る様子を描いた〔 〕が
さかんとなった。

06 従来の唐絵に対し、平安中期に日本の
風景などを描いた絵画は〔 〕と
呼ばれた。また漆器の技法である
〔 〕が発達した。

07 平安中期には和様の能書家として
〔 〕があらわれ、和様の書が完成し
た。藤原佐理の『 』が代表作
である。

08 貴族の正装は〔 〕でその略式
の礼装は〔 〕と呼ばれた。女官の
正装は〔 〕（十二単）であった。

09 男子の成人式にあたるのが〔 〕
で、女子の成人式にあたるのが〔 〕
であった。

10 家柄が固定化する中、貴族たちはわら
をもすがる思いで、陰陽師の占いにすがっ
た。外出を避けて自宅で謹む〔 〕
や、外出の際に方角を変えて移動する
〔 〕などが行われた。それでも願
いが叶わなかった時の失望は大きく、
〔 教〕が広まる一因ともなった。

●平安中期の地方社会

01 10 世紀以降、人頭税から土地税への移
行が進み、国司は徴税請負人化した。や
がて現地に赴かない〔 〕の国司〕や
国司に代わり現地に派遣される〔 〕

が登場し、それを地元の有力者が務める
〔 〕が支える体制へ移行した。

02 任国に赴いた国司は〔 〕と呼ば
れるようになり、当時〔 〕と呼ばれた
有力農民に〔 〕の経営を請け負わせ
た。名の経営を請け負った有力農民を
〔 〕という。

03 10 世紀末、農民の力が台頭する中で、
現地の有力者や百姓が受領を訴えた
〔 〕の史料が残る。

04 平安中期以降、朝廷や上級貴族に財物
を提供し代わりに官職を得る〔 〕
がさかんにおこなわれた。

05 朝廷に財物を提供し、任期の終了後に
再任される〔 〕も行われた。

06 地方各地に武士団が成立したが、その
代表 3 つは、河内に拠点をもった〔 〕
源氏〕桓武天皇の子孫である
〔 〕平氏〕それと奥州藤原氏である。

07 武士団は、その首長を〔 〕と呼び、
その血族の〔 〕、従者である
〔 〕によって構成された。

08 10 世紀前半、東国で〔 〕が、
瀬戸内で〔 〕が武士の反乱を起
こした。これを〔 〕の乱〕という。

09 朝廷は倒した者には貴族（五位以上）
の位を与えると約束し、平将門を倒した
〔 〕平 〕や〔 藤原 〕などの武
士が台頭するきっかけとなった。

10 朝廷は武士を〔 〕や追捕使
に任命し、治安維持に武士の力を利用した。